

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第28回 相模原市地域公共交通会議		
事務局 (担当課)		まちづくり計画部 交通政策課 電話042-769-8249(直通)		
開催日時		平成30年 8月22日(水) 13時00分～15時00分		
開催場所		相模原市民会館 3階 第1中会議室		
出席者	委員	14人(別紙のとおり)		
	事務局	8名		
公開の可否		可	不可	一部不可
		傍聴者数		5人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<p>1 開 会</p> <p>2 委員紹介</p> <p>3 会長、副会長の選出</p> <p>4 協議事項</p> <p>(1) 牧野地区における新たな公共交通の方向性について</p> <p>(2) 吉野・与瀬地区乗合タクシー「ふれあい号」の運行継続について</p> <p>5 報告事項</p> <p>(1) コミュニティバス及び乗合タクシーの平成29年度運行実績について</p> <p>ア 大沢地区コミュニティバス「せせらぎ号」について</p> <p>イ 大野北地区コミュニティバスについて</p> <p>ウ 内郷地区乗合タクシー「おしどり号」について</p> <p>エ 根小屋地区乗合タクシー「くっしー号」について</p> <p>(2) 内郷地区乗合タクシー「おしどり号」の事業者選定結果について</p> <p>6 そ の 他</p> <p>7 閉 会</p>		

審 議 経 過

会議結果

会長及び副会長の選出について

会長には、中村文彦氏、副会長には、落合勝司氏が委員の互選によって選出。

協議事項（１）牧野地区における新たな公共交通の方向性について

本協議事項に関する課題を整理し、再度協議を行うこととする。

協議事項（２）吉野・与瀬地区乗合タクシー「ふれあい号」の運行継続について

原案のとおり承認。

審議経過 （ は委員の発言、 は会長の発言、 は事務局の発言 ）

1 開 会

2 委員紹介

3 会長及び副会長の選出

4 協議事項

（１）牧野地区における新たな公共交通の方向性について

公共交通空白地有償運送の実施に係る合意について、地域のタクシー会社に現状を確認したが、篠原地区の公共交通需要に対しては、十分タクシーで対応できると伺っている。そのため、公共交通空白地有償運送の実施条件には当てはならないと考える。新たな公共交通について、公共交通空白地有償運送を導入する事を前提に検討を進めていくスケジュールだが、タクシー事業者があり、輸送サービスを提供できると言っている中、今ある藤野地区のタクシー事業者、近隣のタクシー事業者等により、この地域の公共交通を確保する方策を優先して検討すべきではないか。

原案では観光客も輸送対象となっているが、安い運賃の公共交通空白地有償運送が運行されるとタクシーの利用者が奪われてしまう。本来、公共交通空白地有償運送は、バスやタクシーがない、本当の公共交通空白地において検討すべき案として考えている。

篠原地区はバス、タクシーもあり、完全な公共交通空白地ではないため、公共交通空白地有償運送の実施には、交通事業者の合意が必要だということは承知している。地域の検討会では、地域住民は公共交通の利用が敬遠されている最大の要因を駅に直通していないためであると分析し、何とか地域住民が運行主体となる公共交通空白地有償運送で駅に直通できないかと検討してきたところである。

利用客の奪い合い、タクシー事業の衰退との意見もあるが、地域としては、公共交通

空白地有償運送の実施によって地域の活性化が図られ、地域住民の外出の機会の増加や観光客の増加に繋がり、交通事業者の利用者も増えるような展望を持っている。既存客の奪い合いではなく、それぞれの交通機関が役割をもって地域の活性化をできると考えた中で提案をさせてもらった。

「十分な輸送サービスが確保されないと認められ」とあるが、認められる・認められないとの判断は地域公共交通会議で行うのか。

その通りである。

公共交通について、重要な課題は2つある。1つ目は、安全の確保である。バス会社、タクシー会社はそれぞれ経費をかけ、安全確保に努めている。運転手は2種免許を取得しており、資格の取得には相応のコストがかかっている。安全の確保は、最優先課題である。2つ目は、公共交通は、将来に渡り継続できるかが重要である。公共交通空白地有償運送によって10年、20年先も同じような公共交通を確保できるかどうか。また、人材不足・労働力不足がどの業界でも課題であるが、バス事業においては、最大の危機感としてあげられる。この地域に限らず、どの地域においても合理的な運行計画を練り直さないとバスの運行が継続できない状況である。

運行主体となるNPO法人では、現在地域に在住しながら東京でタクシー運転手として働いている30代の男性を常勤・専従運転手として雇用することを計画しており、これによって安全性・事業持続性を担保できると考えている。なお、運行内容の検証・評価については、3年サイクルで実施していきたい。

利用者について伺いたい。地域住民や観光客が利用可能とある。他地域における公共交通空白地有償運送では、対象の旅客を登録会員に限っている事例が多いと承知している。篠原地区においても会員制とする予定か。

地域にお住まいの住民、親族については会員名簿を作成し、登録をしてもらう。観光客まで対象の旅客に含めた場合、観光客については名簿による登録制は難しいと考える。

観光客まで対象旅客を想定するならば、地域にタクシー会社は要らなくなってしまう。

観光客を全て輸送するとタクシー事業と競合するという点は承知をしているが、観光目的で訪れる人が多い地域であり、地域の活性化のためには観光客も含めて一体的に輸送する必要があるという地域の意向を踏まえて提案をした。ただし、交通事業者の合意は必要であると考えている。

バス事業者としては、藤野駅からやまなみ温泉は幹線、それから先等は支線と位置付けている。やまなみ温泉で乗り換え、やまなみ温泉から藤野駅間の幹線を利用していただいて、赤字路線ではあるが、何とか維持している状況である。

公共交通空白地有償運送を導入し、藤野駅に直接輸送することになると、今後も維持していかなければならない路線である幹線について、減便などの合理化を考えざるを得なくなる。

地域の人口が少ない中、先ほど意見のあった10年、20年先も見据えた場合、公共交通空白地有償運送を維持できるのか疑問である。また、相模湖・津久井方面に範囲

を広げる前に、まずは藤野駅までの直通運行の可能性を検討し、次のステップを踏んでいくべきではないか。

篠原地区における公共交通空白地有償運送の実施に係る経費であるが、NPO法人と市のどちらが積算したのか。

NPO法人が運行経費について積算をした。

運転手などには会費を払ってもらって会員になってもらうのか。

新たに会費を払ってもらって運転手になってもらうというよりも、会費を払っている会員の中で運転手の適性のある方をお願いし、賃金を支払うことと聞いている。

やまなみ温泉での乗り継ぎの人数、温泉施設でのバス待ちの可否、バス利用者における温泉利用者の割引制度創設の可否を伺いたい。

やまなみ温泉での乗り継ぎ人数について、正確な人数は把握していないが、現在の乗合タクシーや補助路線の利用者は、やまなみ温泉が最終目的地の方は少なく、バスに乗り継ぎ藤野駅に向かっている人が大半であると思う。やまなみ温泉の施設はバス停から徒歩約5分である。乗り継ぎによる待ち時間が1時間程あれば、温泉を利用することも可能である。バス利用者に対する温泉の割引は現在ないが、市が指定管理により運営をしている施設であり、市としても連携策を検討することはできる。

交通事業者によって十分な輸送サービスを確保できるか否かが、公共交通空白地有償運送の実施を判断する上での最大の論点となるが、タクシー事業者は対応できると主張し、これは地域の認識とズレがあるかもしれない。最終的にはこの会議で判断をしなければならない。十分な輸送サービスが確保されていないと判断した場合でも、次に運行範囲、対象旅客をどこまでの認めるのかの議論も必要となってくる。また、公共交通空白地有償運送の実施に係る経費の計算について、精査が必要である。

NPO法人と言えども人を雇用するとなれば、最低賃金を守らないといけないはずである。その辺を市も認識しながら、NPO法人と話をしてもらいたい。

牧野地区における公共交通需要量と、それに対するタクシーの輸送力を把握できているのか。

地域のタクシー会社との話においては、サービスの提供は十分に可能と聞いている。また、運行開始が午前8時からであるが、通勤・通学などへの対応は、1時間早めるなど臨機応変に対応できると聞いている。

「十分な輸送サービス」の提供可否について、判断をしなければならないが、市はタクシーの輸送力や輸送実態を把握しているのか。

タクシーの輸送実態の詳細までは把握していない。

現在の乗合タクシーを廃止し、新たな交通モードに移行するにあたり、時間帯、運行経路、利用人数などから利用実態をシュミレーションして、タクシー事業者による運行が可能かどうかの検証をしていただきたい。

地域のタクシー会社には乗合タクシーの利用状況データを提供したところ、対応可能との話は伺っている。また、近隣の事業者の応援もいただけると伺っている。

公共交通空白地有償運送の実施に係る合意については、一番重要なポイントである。地域の公共交通全体を考えたとき、これまでの意見を踏まえると、今回の会議では原

案に対する合意形成を図ることはできない。

住民目線としては、利便性が高く、運賃は安いのが理想とは思う。ただ、利用者も持続可能な公共交通を作るという意識を持つことが必要だと感じる。

公共交通空白地有償運送の実施に係る合意に関して、タクシー輸送力の状況を十分に分析し、タクシーによって十分な輸送サービスの確保が可能であるかの結論を出す。その上で、輸送サービスが足りない部分があるという結論に至った場合には、運行範囲及び対象旅客に係る合意について、タクシー事業、バス事業がある中で地域のバランスを考え、いくつかの案を以って落としどころを探っていただきたい。平成31年4月から移行するにあたり、検討スケジュールは大丈夫か。

バス協会、タクシー協会、公募市民などの各委員の様々な意見をいただき、整理する必要がある。タクシーの利用実態や輸送力を把握、十分検証し、地域とも再度話し合いの場を持ちたい。本来ならば今回の会議は12月頃の予定であったが、来年度の事業準備をするためには、速やかに課題などを整理でき次第、12月を待たずして会議を開催させていただく。

県内、関東運輸局管内で公共交通空白地有償運送の事例はないのか。

県内にはないが、関東運輸局管内にはある。

必ずしもタクシーが運行してさえいれば、十分な輸送サービスの提供があると認められる、という事ではないと思うので、他地域の事例を確認して、地域、バス事業者、タクシー事業者との協議、調整方法や落としどころを確認してほしい。

地元のタクシー事業者が輸送サービスを提供する意思がある以上、タクシーによる輸送の確保を優先的に議論するのが原則である。

タクシーを活用した輸送の仕組みについては、タクシー事業者と協議を行う必要がある。

本協議事項について、原案の継続審議とし、事務局において、課題の整理をしていただき、早々に次回の会議で再協議させていただくこととするが、よろしいか。

異議なし

(2) 吉野・与瀬地区乗合タクシー「ふれあい号」の運行継続について

質問等が無ければ、吉野・与瀬地区乗合タクシー「ふれあい号」の運行継続について認めるという事でよろしいか。

異議なし。

5 報告事項

(1) コミュニティバス及び乗合タクシーの平成29年度運行実績について

運行継続にあたり、何か活動を行う事で継続に至っているのか。また、運行状況が悪い場合、何かしらの改善策を行う事で利用状況が改善したか。

それぞれ地域に組織があり、利用促進の活動をしている。例えば、乗合タクシーであ

れば、ポスターをゴミ収集所に貼ったり、コミュニティバスなら車内に地域のイベントを掲示することで、バスを利用し、イベントに参加してもらうなどの利用促進をしている。

大野北地区コミュニティバスについて、運行継続の条件を満たしていない。現在の取組状況を報告いただきたい。

今年度の運行については、利用者は徐々に増えているが、収支比率が若干下回っている。なお、前年度、運行継続条件を満たしていないため、現在、ダイヤの見直しについて、神奈川中央交通に御協力いただき、急行便を各駅便に変更、行き先が同じで、発車時刻が近い神奈川中央交通のバスとの時刻をずらすなどの検討を行っている。

運行の見直しについて、地域、利用者アンケートを実施したのか。

アンケートは実施していないが、地域の利用促進協議会にて意見をいただきながら、見直しを検討している。

利用者の声がなかなか協議会まで届かないこと、バスを利用しない理由などを集めることで利用促進に繋がることから、アンケートは必要と考える。

利用者に対し、現在の運行状況を周知し、運行状況が悪ければ、減便などの可能性があることを知っていただきたい。収支比率を若干下回る状況だが、利用者も運行状況を認識し、需要喚起として、利用者が身近な方に声かけをするなどを行えば、運行条件を満たすことができると感じる。

コミュニティバスを地域に持続的に根付かせるため、収集できていない意見や数値的な目標を達成するための今後の利用促進の方策を地域の会議で検討すること。

(2) 内郷地区乗合タクシー「おしどり号」の事業者選定結果について

以上、意見が無ければ報告事項を終了してよろしいか。

異議なし

6 その他

市総合都市交通計画の施策目標1の主な事業として掲載されている「公共交通の乗継利便性の向上」についての問い合わせ先はどこか。

事務局である交通政策課で対応し、乗継、割引等の内容については、この会議で検討・協議をしていく。

協議事項(1)について、課題の整理を行い、早々に会議を開催させていただく。日時など詳細は改めて連絡する。

7 閉 会

以 上

第28回 相模原市地域公共交通会議出欠席名簿

所属・役職	氏名	出欠
横浜国立大学 理事・副学長	中村 文彦	出席
東洋大学 国際学部 国際地域学科 教授	岡村 敏之	欠席
一般社団法人 神奈川県バス協会 常務理事	小堤 健司	出席
一般社団法人 神奈川県タクシー協会 相模支部 常任理事	大畠 雄作	出席
神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 事務局次長	高橋 和彦	出席
神奈川中央交通株式会社 運輸計画部長	齋藤 謙司	出席
国土交通省関東運輸局 神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官	小松 和則	代理出席
神奈川県警察本部 都市交通対策室長	藤田 和久	欠席
神奈川県 県土整備局 都市部 交通企画課長	星名 隆	代理出席
相模原市自治会連合会 理事	落合 勝司	出席
特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら 理事	中西 知子	出席
公募市民	小島 祐行	出席
公募市民	前村 一美	出席
公募市民	高田 真理	出席
相模原市 都市建設局 道路部長	佐久間 和彦	出席
相模原市 都市建設局 まちづくり計画部長	荻野 隆	出席